

令和8年度
運営に関する計画



大阪市立高倉小学校
令和8年4月

大阪市立高倉小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

高倉小学校は、保護者や地域の方々が学校教育に対してたいへん協力的で、オレンジ隊の方々による登下校の安全見守りが毎日実施され、盆踊りや地域運動会、餅つき大会など地域の行事も活発で、高倉地域全体で児童の成長を応援するあたたかい雰囲気がある。

本校の児童は全体的に優しく落ち着いており、助け合って様々な活動に取り組むことができている。しかし、コミュニケーションに課題のある児童が怒り(不安)のあまり関係を断ち切るような言葉を使ったり、遊びたい気持ちを伝えられず友だちに暴力をふるってしまい「どうせおれなんか…」と自尊心を下げてしまったりするような場面がどの学年にも見られる。また、不登校児童の多さも積年の課題である。生活リズムの乱れや学級に苦手な児童がいるなど原因は様々であるが、令和7年度末の不登校児童の在籍比率は 2.7%であり、大阪市平均の 2.05%を上回っている。

学校教育目標『『ともに幸せに生きる力』を育てる』を具現化するため、児童が身のまわりのあらゆる人・物・事に感謝の気持ちを持つことができる子、自分も他者も大切にできる子、人に親切にする、悪い誘いを断るなど正しいと判断したことを行動できる勇気のある子を育てていきたい。自らがかけがえのない大切な存在であると実感できるよう、まずは教員が人権意識を磨き、課題のある児童に対する理解、学級内で適切な合理的配慮ができる専門性をさらに向上させることによって、誰にとっても居心地のいい学級づくりを実践していく。不登校支援については、初期対応をより迅速に行い、一人ひとりの課題に寄り添った支援計画を立て、学年団で PDCA サイクルを回しながら遅延のない支援を徹底し「誰一人取り残さない」を実現したい。学級においては、「課題のある子を中心に据えた学級経営」を進め、複数の教員が指導に関わりながら多角的に見守る体制を整え、より丁寧に児童に寄り添えるようにしていく。また、保護者にも、スマホや SNS の家庭内ルールを作り守らせること、規則正しい生活の重要性を周知して協力を得られるようにし、学校と連携して児童の心身の健全な発育と学力の向上を図りたい。そのため、学校からの情報発信の頻度を増やし、内容や方法にもさらに工夫を重ねていきたい。

また、児童の「生命」の安全を保障することは最重要項目として引き続き徹底していく。「南海トラフ地震」や不審者事案などがいつ起こっても被害を出さないように日常的に意識を高めておきたい。先の東日本大震災で世界中から高く評価された日本の学校の避難訓練のあり方をさらに改善し、計画的に実施していき、防犯訓練や救急救命訓練も計画通り実施していく。

働き方改革については、厚生労働省の方針に沿って時間短縮と業務削減を継続する。今年度も職員の心理的安全性を高め、「働きがい」を感じられる、「働きやすい」居心地のいい職場を目指し、職員の間関係がさらによくなるよう「対話」の質と量の改善に重点を置く。

学力・体力の向上に関しては、「対話」を手がかりに主体的な学びを引き出す授業を目指して研究を推進する。また、ICTの効果的な活用を進める。健康教育においては、体力向上だけでなく、児童の長い人生を考え、一生涯身体と命を大切にす心情を育み、自分はもちろん他人のことも大切にしようとする意識と行動を身につけさせたい。そのために「性教育」などの健康教育の充実と「なわとび集会」「かけ足週間」などの効果的な取組を計画通りに進めていく。

以上のような具体的な行動計画に沿って、今年度の目標を達成させることを4年間積み上げ、中期目標である令和11年度の目標を全て達成させていく。

中期目標(令和11年度までに達成する目標)

【安全・安心な教育の推進】

●小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**93.0%以上**にする。(大阪市の R8 目標 84.7%以上、R7 高倉小学校は86%)

●小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**93%以上**にする。(新設問 R8 市の指針は目標 90%)

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

●小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**85.0%以上**にする。(大阪市R7年は 82.1%。高倉小学校 R7 年80%、R6 年も80%)

●小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**90%以上**にする。(大阪市目標R8年 89.2%以上。高倉小は R7 年 84%、R6年89%)

【学びを支える教育環境の充実】

●小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を**86%以上**にする。(R7 年86%、R7 の新設問)

●教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を**月 20 時間以下**とする。【全市目標】
(R8 年は全市で月23時間34分以下を目標とする)

2 中期目標の達成に向けた年度目標(全市共通目標を含む)

1.【安全・安心な教育の推進】中期目標

- ・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。
- ・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出来ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。

学校の年度目標

- ・フルインクルーシブの具現に向けて、教職員一人ひとりが不登校やいじめに対しても児童の困り感に気づく力を磨き、障がいのあるなしにかかわらずすべての児童に対して合理的配慮や自立支援の在り方を考えていく。発達障がいを含む障がいに対する理解や特別支援教育の専門性をさらに高め、課題のある児童を学級を中心に据え、すべての児童にとって居心地のいい学級経営を実現する。

指標:校内調査において(新設問)「わたしの学級は、みんなが安心できる学級である」についての肯定的回答率を年度当初より上げる。(5月・10月・2月調査)

- ・小学校学力経年調査における「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(高倉小R7年86%、R6年は81.2%)

2.【未来を切り拓く学力・体力の向上】中期目標

- ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

【大阪市目標:全国学調R8年度 82.1%以上→R11年度 85.0%以上】(高倉小 令和7年80% R6年80%)

- ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 85%以上にする。(大阪市R7年は 89.2%。高倉小R7年度85%、R6年89%)

学校の年度目標

- ・校内調査において(R7:新設問)「授業中、友だちと自分の考えを話し合ったり、勉強を教え合ったりしている」の肯定的回答率を年度当初より上げる。(5月・10月・2月調査)(R7年:88%)
- ・校内調査における「学校や放課後、休みの日に楽しんで運動したり、外で元気に遊んでいる」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を84%にする。(R7年83% R6年82%)(5月・10月・2月調査)

3.【学びを支える教育環境の充実】中期目標

- ・小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下を達成する。
(R8年の全市目標は、月 23 時間 34 分以下)

学校の年度目標

- ・校内調査において「お家で決められたスマホやゲームのルールを守っている」という質問に対して「ルールがない」と回答する児童の割合を年度当初より下げる。(5月・10月・2月調査) (R7年16%、R6年16%)
- ・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を 23 時間以下にする。

(様式2)

大阪市立高倉小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。・小学校学力経年調査における「自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることが出ていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を87%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none">・フルインクルーシブの具現に向けて、教職員自身の障がいに対する理解や特別支援教育の専門性をさらに高め、不登校やいじめに対しても児童の困り感に気づく力を磨き、特性のあるなしにかかわらずすべての児童に合理的配慮や自立支援の在り方を考えていく。課題のある児童を学級の中心に据え、すべての児童にとって居心地のいい学級経営を実現する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・校内調査において(新設問)「私の学級は、みんなが安心できる学級である」についての肯定的回答率を年度当初より上げる。(5月・10月・2月調査)・小学校学力経年調査における「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。(R7年は85%、R6年は81.2%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none">●いじめを起こさないための取り組みを継続して行い、いじめ事案が発生した場合は全教職員で情報共有し協力して対応することで、いじめを許さない環境を醸成する。●すべての教育活動の中で「仲間づくり」を大切にする。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none">・校内調査において「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して否定的な回答の児童の割合を前年度よりも減少させる。(R7年4%、R6年5%)	
<p>取組内容②【2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none">●人との違いを認められる人権教育を進め、安全で安心できる学校をつくる。・人権教育の年間指導計画を作成し、各学年の実態に応じた取組を実践する。・みんなが「居心地のいい学校」を目指して主体的に取り組める活動を工夫する。 <p>指標</p>	

<p>・校内調査において「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度よりも向上させる。(R7年82%、R6年79.6%)</p>	
<p>取組内容③【施策1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「防災」「減災」教育に取り組む。 ・防災・減災に関わる授業を各学年年間2回以上実施する。 ・防災マニュアル(警備及び防災の計画)の確認日を学期1回設け、緊急時の教職員個々の役割や全体の動きを確認する。 	
<p>指標</p> <p>・校内調査で「緊急時の避難の仕方がわかる」について肯定的な回答をする児童の割合を昨年度よりも向上させる。(R7年は94%、R6年は96%)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

大阪市立高倉小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準	A:目標を上回って達成した	B:目標どおりに達成した
	C:取り組んだが目標を達成できなかった	D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を82%以上にする。(※R7年80% R6年80%) ・小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。(R8年89%以上を目標とする。※R7年85% R6年89%) <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査において(R7:新設問)「授業中、友だちと自分の考えを話し合ったり、勉強を教え合ったりしている」の肯定的回答率を年度当初より上げる。(5月・10月・2月調査)(R7年:88%) ・校内調査における「学校や放課後、休みの日に楽しんで運動したり、(体を動かす遊びを含む)外で元気に遊んでいる」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を84%にする。(R7年83% R6年82%) 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容④【4 誰一人取り残さない学力の保障】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●学力向上に向けて授業力向上に取り組む。 ・学級で話し合う活動を効果的に取り入れ、児童が主体的に学ぶ授業を進める。 ・高倉1分間トークを毎日、サークル対話を月1回程度実施する。教職員同士も積極的に対話し、必要な情報を共有しチームとして教育活動を推進していく。 ・児童が主体的に学ぶ授業を、全教員年間1回以上公開する。 <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内調査において(R7:新設問)「授業中、友だちと自分の考えを話し合ったり、勉強を教え合ったりしている」の肯定的回答率を年度当初より上げる。(5月・10月・2月調査)(R7年:88%) 	
<p>取組内容⑤【5 健やかな体の育成】</p>	

<p>●児童の体力・運動能力の向上に向けて、体育科学習の充実を図ったり、運動や遊びの環境を整えたりする。</p> <p>・年間3回以上体育的行事を実施し、運動に親しむ機会を設ける。また、がんばりカード等を活用して振り返りを行い、運動に対して意欲が高まるようにする。</p>	
<p>指標</p> <p>・校内調査における「学校や放課後、休みの日に楽しんで運動したり、(体を動かす遊びを含む)外で元気に遊んでいる」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を84%にする。(R7年83% R6年82%)</p>	
<p>取組内容◎【5 健やかな体の育成】</p> <p>●児童の発達段階に応じた健康に関する指導を推進し、日常より<u>基本的な生活習慣</u>について徹底するように取り組む。(健康に関する現代的課題への対応)</p> <p>・規則正しい生活と学習の理解度との相関関係を家庭に啓発し、家庭で規則正しい生活の重要性を周知する。</p>	
<p>指標</p> <p>◎校内調査において「朝食を毎日食べること」(R6年96%、R7年95%)</p> <p>◎校内調査において(新設問)「毎日同じくらいの時刻に寝て、同じくらいの時刻に起きること」</p> <p>それぞれの質問に肯定的に回答する児童の割合を年度当初よりも上げる。(5月・10月・2月調査)</p>	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	

(様式2)

大阪市立高倉小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>●小学校学力経年調査における「インターネットや生成AI、SNS等を活用する時に、情報の確かさを確認したり、悪口やいじめにつながる内容を扱わないよう注意していますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(R7年は86%)新設問</p> <p>●教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月 23 時間以下とする。 (R8年全市目標は月23時間34分以下)</p> <p>学校の目標</p> <p>・児童のSNSやインターネットの利用時間と学習到達度との相関関係を保護者に啓発し、スマートフォンのルールの重要性について周知していく。</p> <p>指標:校内調査において「お家で決められたスマホやゲームのルールを守っている」という質問に対して「ルールがない」と回答する児童の割合を年度当初より下げる。(5月・10月・2月調査) (R7年16%、R6年16%)</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑦【6 教育DX デジタルトランスフォーメーション】</p> <p>●学習者用端末を積極的に活用する。</p> <p>指標</p> <p>・「心の天気」を毎日活用する。 ・2年生以上は学習者用端末を活用した学習を週 1 回以上おこなう。 ・学習者用端末を用いたオンライン学習を年間1回以上おこなう。 ・情報モラル教育実践を各学年で年間1回以上おこなう。</p>	
<p>取組内容⑧【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>●教職員全員の「協働」を重視して、余裕を持って働ける職場環境改善を進める。 ・毎月の自分の勤務時間を把握し、教職員同士で声をかけあい「早く帰るDAY」を設定しその日はできるだけ早く退勤する。</p> <p>指標</p> <p>・教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を月23時間以下にする (毎月の SKIP 時間外勤務実績で把握する)</p>	

<p>取組内容⑨【8 生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●読書への関心が高まる環境を整える。 ・現状の読書環境をよりよく改善し、読書への関心を高められるような取り組みを行う。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を昨年度よりも向上させる。(R7年65%、R6年73%) 	
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>次年度への改善点</p>	